

令和6年度 第1回 東近江市市民協働推進委員会【ふりかえり】

◆第二次市民協働推進計画の進め方について(委員長あいさつより)

- ・協働のフェーズを社会情勢の変化とともに変え磨いていく。
- ・まちのわ会議は、市民主導の国内でも素敵な取組であると感じている。企業や事業所のまきこみ方を考えるなど、手段として協働を用いつつ、その先のハッピーを目指していきたい。
- ・できることとできないことについて理解し、市民と行政が健全にせめぎあいながら、行政にできないことは市民に何ができるかを考えていく必要がある。

自治会(基本施策3)

- ・若い人の加入率が低い現状をどうすればいいか。古い、新しいのどちらかに合わせるのではなく、上手に中間をとった仕組づくりができないか。
- 自治会を自治のベースとして、どういう価値があるのか議論を行う必要がある。なくなってしまうたらもう元には戻らない。特効薬はないが、このままではいけないことはわかっている。
- マイナス部分を減らすことが課題の解決としての主流になっている。今はないけれどもこれがあるといいという発想をいかし、ゼロからプラスにできる取組が必要。
- 決められたことを決められたとおりにするのはしんどい。喜んでもらえるなどの成果が見えると楽しさがある。

まちづくり協議会(基本施策3)

- ・中間支援組織等のサポートがあるとやりやすいと感じるが、サポートなくなったら果たして回していけるのだろうか。
- ・役務免除などやらない方向への仕組みは多いが、やる方向への仕組が少ないという風潮は今の時代にマッチしていない。
- 後継者問題に対峙する時期であることから、まち協の在り方を考える必要があるのでははないか。従来通りのイベント事業でいいのか、若い世代が望むものは違うのか。時代が変わってきていることを実感する。
- 全面的なサポートの上で試験的に一度、ご破算にして再構築を考えてみるのもひとつの選択肢かもしれない。

若者の意見の尊重(基本施策4)

・今の若者は、学校教育の変化から、「自分がこう思うから、こう考えるから」といった自身の考えを率直に発信することが多い。昔と向き合い方が変わってきているのではないか。

→当事者の考えや望みが置き去りになっている。

→中学生議会など、当事者の声を取り上げられる仕組みはいいと思う。

→高齢化の現状の中で、実は興味を持っている若者は実は多い。時代に合ったクリエイティブなやり方が必要になってくる（消防団に憧れる若者は多い）。

→横のつながりが強いことはよいことだが、縦のつながりが弱いことが課題。若者グループは、他世代とつながりやすい。既存の地域コミュニティとつながるといっしょにできることもある。

情報の見える化(基本施策2)

情報の共有や、見える化が必要になってくるのではないか。当事者の目線から見て、支援をたらいまわしされている感覚がある。専門的な一箇所の相談窓口の必要性を感じる。

学校とともにある地域づくり(基本施策2)

・協働大賞を取った八日市南高校のような地域振興の取組が広がれば。

・五個荘地区でのイベントで、中学生がスタンプラリーのシートやキャラクターを作成してくれた。学校とのつながりをいかして、将来のまちづくりに興味を持ってもらえるような人材育成を行いたい。

→学生とのまちの接点を作っていく。いろんな形での関わり合い方があってよく、子ども扱いしないことが大切。

※この計画について、「検討」事項を「試行」や「実施」にもっていくためのヒントやアクションの入り口を考えていきたい。次回も引き続き延長した議論を行いたい。